

October 18, 2019

【前日の為替概況】ポンドドル、ブレグジット合意巡り 1.2990ドルから 1.2758ドル付近へ反落

17日のニューヨーク外国為替市場でポンドドルは下げ渋る展開。欧州時間に英国と欧州連合(EU)が英国のEU離脱(ブレグジット)を巡る条件を修正することで合意したと伝わると、「合意なき離脱」の回避へ向けた前進としてポンド買いが優勢となり、1.2990ドルまで上昇した。ただ、英与党に閣外協力する民主統一党(DUP)はブレグジット案を支持しない方針を表明し、最大野党・労働党も反対姿勢を鮮明にしている。議会承認に不透明さが残っていることから、ポンド買いは一時的にとどまりすぐに失速し、1.2758ドル付近まで下押しした。9月米住宅着工件数、10月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数、9月米鉱工業生産指数など米経済指標が予想を下回ったことで、ドル売りが優勢になり、ポンドドルも1.28ドル台後半まで強含んだ。ジョンソン英首相はEU首脳会議で合意したブレグジット案について「とても良い合意だ」と述べ、19日に予定される議会での承認に「非常に自信を持っている」と語った。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1125ドルと前営業日NY終値(1.1072ドル)と比べて0.0053ドル程度のユーロ高水準。欧州市場では、ブレグジット案合意を背景にポンドドルが上昇したことにつれて、ユーロ買い・ドル売りが先行し1.1140ドルまで値を上げた。

ドル円は続落。終値は108.66円と前営業日NY終値(108.76円)と比べて10銭程度のドル安水準。10月米フリー指数など低調な米指標が相次いだことで円買い・ドル売りが先行し、米10年債利回りが一時1.72%台まで低下したことも嫌気されて、108.46円と日通し安値を付けた。欧州市場ではブレグジット案合意を好感して、ダウ先物や日経平均先物が上昇したためドル円にも買いが優勢になり一時108.94円と8月1日以来の高値を付ける場面があった。

ユーロ円は3日続伸。終値は120.90円と前営業日NY終値(120.43円)と比べ47銭のユーロ高水準。

トルコリラは一転上昇。米共和党の重鎮グラハム上院議員のトルコ制裁案のなかに、米投資家によるトルコ国債購入の制限・禁止が含まれていると報じられるとリラ売りが先行し、ドルリラは5.9316リラ、リラ円は18.28円までリラ安が進んだ。エルドアン・トルコ大統領とペンス米副大統領が「トルコはシリアでの休戦に合意した。停戦が恒久的になれば、米国は対トルコ制裁を解除する」との考えを示すと一転リラを買い戻す動きが優勢となり、ドルリラは5.8146リラ、リラ円は18.66円までリラ高に振れた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日本のインフレ率や中国の景況感指数に要注目か

本日の東京市場のドル円は、日本のインフレ率や中国の景況感指数を見極めながら、英国と欧州連合(EU)によるEU離脱案合意の続報や米中通商部分合意に関連する要人発言などのヘッドラインに警戒する展開が予想される。

ドル円の上値には109.00円にドル売りオーダーが控えているものの、超えるとストップロス買いが控えており、リスク選好となるポジティブサプライズを受けた買い仕掛けに要警戒となる。下値には、108.40円にドル買いオーダーが控えており、9月日銀短観での大企業・製造業の2019年度想定為替レート108.68円を意識しながらの展開が予想される。

本日は、8時30分に9月の全国消費者物価指数(CPI:生鮮食品を除く総合、予想:前年比0.3%)、CPI(生鮮食料品・エネルギー除く、予想:前年比0.5%)が発表されるが、予想を下回った場合、日銀の追加緩和の可能性が高まることで、15時35分からの雨宮日銀副総裁の講演に要注目となる。

11時には、7-9月期中国国内総生産(GDP、予想:前期比年率+1.5%/前年同期比+6.1%)、9月中国鉱工業生産(予想:前年比+5.0%)、9月中国小売売上高(予想:前年比+7.8%)が発表される。9月からのトランプ政権による対中制裁関税第4弾を受けた中国の景況感悪化が懸念されており、ネガティブサプライズに要警戒となる。

「第1段階」の米中通商「部分合意」に関しては、今週は米中次官級通商協議が開催されており、来週の電話での米中閣僚級通商協議で文書化されるが、ムニューシン米財務長官はライトハイザー米通商代表部(USTR)代表とともに訪中の意向も示しており、米国側の前向きなスタンスが窺える。しかしながら、中国側は、「米国に対する報復関税を維持する限り年間500億ドル相当の米国産農産物の購入は難しい、報復関税を撤廃する条件は、トランプ米大統領が関税を撤廃することだ」と警告しており、米下院が可決した「香港人権・民主主義法案」に対する報復措置を示唆していることで、来週にかけて、依然として、予断を許さない状況が続くことになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 9月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比 0.3%）
- 08:30 ☆ 9月全国 CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比 0.5%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 15:35 ◇ 両宮正佳日銀副総裁、あいさつ
- 未定 ◇ 10 月月例経済報告

<海外>

- 11:00 ☆ 7-9 月期中国国内総生産（GDP、予想：前期比年率 1.5% / 前年同期比 6.1%）
- 11:00 ◎ 9 月中国鉱工業生産（予想：前年比 5.0%）
- 11:00 ◎ 9 月中国小売売上高（予想：前年比 7.8%）
- 17:00 ◇ 8 月ユーロ圏経常収支（季節調整済 / 季節調整前）
- 22:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演
- 23:00 ◎ 9 月米景気先行指標総合指数（予想：前月比 0.1%）
- 23:05 ◎ ジョージ米カンザスシティ連銀総裁、講演
- 19 日 00:30 ◎ クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、講演
- 19 日 02:45 ◎ カーニー英中銀（BOE）総裁、ワシントンで講演
- 米国、欧州連合（EU）に報復関税発動
- 国際通貨基金（IMF）・世銀の年次総会本会議（ワシントン）
- 欧州連合（EU）首脳会議（ブリュッセル、最終日）
- 20 日 カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議（ワシントン、最終日）
- 19 日 英議会下院、EU 離脱案を審議
- 19 日 国際通貨金融委員会（IMFC、ワシントン）
- 20 日 スイス総選挙

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

17日 06:13 ムニューシ米財務長官

「ブレグジット巡る状況を注視する」
「トルコがシリア領内で停戦しなければトルコへ追加関税」
「中国との通商合意、文書化でやるべきことがまだある」
「ライトハイザー-USTR 代表と中国を訪問する準備している」

17日 07:24 デベル RBA(豪準備銀行)副総裁

「住宅建設はかなり低迷、予想していたよりも早い」
「2020年の居住用住宅建設部門は最低になると思う」
「メルボルンとシドニーの住宅価格は上昇に転じ、投資家も市場に戻ってきている」

17日 07:55 カーニー英中銀(BOE)総裁

「マイナス金利を銀行の手段とはみていない」
「マイナス金利は欧州の銀行に害を与えていない」

17日 16:48 中国商務省

「貿易戦争の停止とすべての関税撤廃が中国の目標」
「米国と合意のテキストをめくり取り組んでいる」
「米国と関税撤回めぐり、進展を期待」

17日 17:49 EU(欧州連合)高官

「10月末までに臨時の首脳会議を開くことはいつでも可能」
「バルニエ英 EU 離脱・欧州委員会首席交渉官は、合意文書はおおむね完成への見解」

17日 18:38 ユンケル欧州委員長

「英国と EU は離脱合意。離脱延長は必要ない」
「11月1日から英と今後の関係についての協議が始まる」
「合意は EU と英国にとって良いもの」

17日 18:40 ジョンソン英首相

「19日にも議会は欧州連合離脱の合意を認めるべき」

17日 20:08 英民主統一党(DUP)関係者

「DUP は離脱案に支持しない方針」

17日 21:22 バラッカー・アイルランド首相

「緩やかな国境が経済の成功継続を可能にする」
「アイルランドの歴史や地域性を考慮した合意が単一市場や我々の地域を守る」
「新しい解決方法はバックストップ案とは異なる」
「移行期間は 22 年末まで延長」

17日 22:13 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「トルコの行動を抑制するためにさらなるトルコ制裁も」
「米中通商合意に向けた強いモメンタムがみられる」
「FRB は正しい方向。さらなる 25bp 利下げは適切」

17日 22:52 ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事

「米中通商協議の声明には勇気づけられた」
「低金利長期化による財政不安定化リスク無視できない」

17日 23:24 ギドリー米ホワイトハウス報道官

「米政府はトルコと外交的な解決に移行」

18日 00:29 ペロシ米民主党・下院議長

「米国・メキシコ・カナダ協定の合意に近づいている」

18日 01:28 トゥスク EU 大統領

「EU 首脳はブレグジット案に合意した」

18日 02:33 トランプ米大統領

「トルコ停戦合意は素晴らしい結果、制裁は必要なくなる」

18日 02:40 ペンス米副大統領

「トルコはシリアでの休戦に合意した」
「停戦が恒久的になれば、米国は対トルコ制裁を解除する」

18日 03:03 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「緩やかな賃金上昇はインフレに差し迫った脅威がないことを示唆」

18日 03:05 黒田東彦日銀総裁

「米中貿易摩擦やブレグジットによる不確実性は依然としてある」「世界の経済の回復時期が後ずれしている」
「物価モメンタムが損なわれるようなら躊躇なく緩和」

18日 03:31 ビスコ伊中銀総裁

「資産買い入れはマイナス金利よりも効果的」

18日 05:22 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁

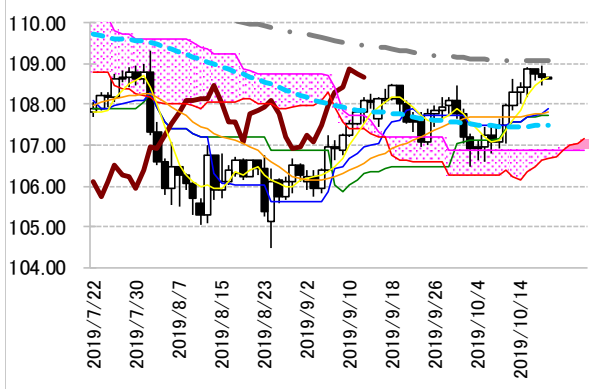
「FRB のオベガ市場を安定させた」
「バランスシートを巡る行動は金融政策のスタンスを変えず」

18日 05:24 エルドアン・トルコ大統領

「米・トルコ共同の努力により、我々の地域に平和や安定がもたらされるだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

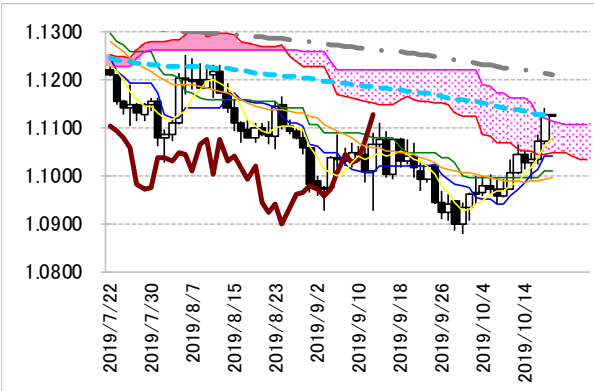


<ドル円=15日安値を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯した。しかし、価格が108.48円から108.94円まで高値更新したものの、相対力指数は低下しており、2手連続陰線や逆行現象がダブル・トップの可能性を示唆していることで要警戒か。

本日は、15日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	109.32(8/1 高値)
前日終値	108.66
サポート1	108.16(10/15 安値)
サポート2	107.88(日足一目均衡表・転換線)

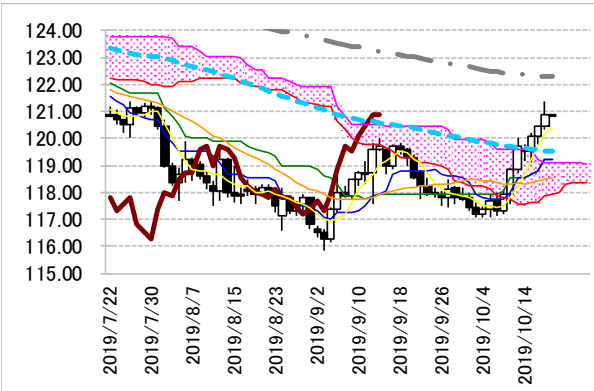


<ユーロドル=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯した。

本日は、雲の上限1.1111ドルを念頭に置きながら、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1250(8/6 高値)
前日終値	1.1125
サポート1	1.1041(日足一目均衡表・転換線)

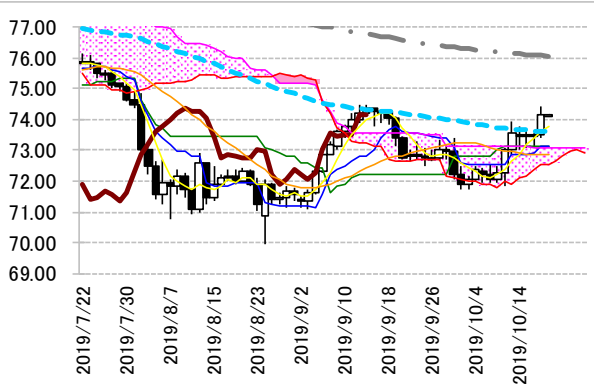


<ユーロ円=17日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯した。陽線新高値8手で5日・21日・90日移動平均線を上抜けており、200日移動平均線に向けた続伸が予想される。

本日は、17日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	122.29(200日移動平均線)
前日終値	120.90
サポート1	120.34(10/17 安値)



<豪ドル円=転換線=基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を下回り、雲の上で引けていること、一目・転換線を上回って引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、転換線=基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.20(7/30 高値)
前日終値	74.15
サポート1	73.12(日足一目均衡表・転換線=基準線)

